

**伊勢市観光振興基本計画推進委員会**  
**平成30年度第1回検証部会会議 議事録要旨**

日時 : 平成30年8月31日(金) 15:30~16:50

場所 : 御園総合支所2階 会議室2-4

出席者(敬称略)

: 委員 山本(部会長)、前田、中村、三浦、竹内、音羽、高橋(8名中7名出席)

: 事務局 東世古、小林、中村洋、畑(以上、伊勢市役所)

1. あいさつ

2. 計画の検証について

(1) 計画の検証

○(資料① 説明)

資料①のとおり検証結果とする(議決)

・満足度、宿泊(食泊分離、市内宿泊増)、消費額(土産代の減少)等について意見が出された。 2ページ参照

(2) その他

○意見交換

- ・体験メニューの開発・実施について課題が確認された。
- ・改元を契機とした誘客の取り組みや、情報発信等について意見交換が行われた。

3ページ参照

## 検証部会で出た意見

### (1) 計画の検証について

#### 【宿泊について】

- 市外宿泊者はどこに泊まっているのか把握できないか。鳥羽・志摩であれば伊勢に長時間滞在してもらえる可能性が高い。
- 市内泊数の増を、「なかなか行かないところ」への誘導につなげられるとよい。
- 伊勢市駅前のホテル開業で、早朝・夕方参拝が増加するなど観光客の動きは変化している。この流れを新たなサービスにつなげられないか。また、早朝参拝は市内泊のインセンティブ、リピートのモチベーションになりうる。
- 宿泊者数については、宿泊施設の稼働率を把握できないか。  
→個々の事業者の経営状況に関する情報であり、把握は難しい。
- 食泊分離について、二見の旅館でもいろいろ展開を考えては？

#### 【観光消費額について】

- 内訳を見ると、食事代が増額傾向。滞在時間が延伸していることと相関しているのではないか。
- 土産代の減少については、「自分が気に入ったものを大切な人にだけ」という考えが主流になっている。
- 旅行機会の増加が、土産物単価に影響しているとも言える。職場等へは、印程度に小分けにしたものを配るのみ。そういった土産を通した、伊勢のPRも大切では。
- コト消費が増大しているというが、どういうニーズ・実態であるか調査が必要。→観光消費額の「その他」にはコト消費が含まれるのでは。内訳を確認したいところ。例えばレンタルの着物・浴衣でまち歩きする観光客の増加。

#### 【満足度について】

- 満足度で「交通」がいつも低迷している。
  - ・根幹は外宮ー内宮間の移動。バスは直通でない意外に時間がかかる。
  - ・車も、渋滞時など伊勢へ着いてからの異動に時間がかかる。車の人は車で近くまで行きたい。このことが不満につながっていないか。
  - ・パーク&バスライド利用者は不満が少ない。
  - ・二次交通を充実させると、河崎など行ってもらいたいところへ行ってもらえる。
  - ・二次交通の充実を図り、車で来る人を公共交通へ誘導する施策も必要。例えば、市営駐車場の収入を公共交通利用者の便益向上に使用するなど。
  - ・まちなか周遊を促進のためレンタサイクル等の充実を期待。
  - ・公共交通によって月夜見宮など“次の”スポットを結ぶことも効果的ではないか。そのためにも二次交通のハブ（乗り換えの拠点）が必要であり外宮前は重要。
- 関東方面からの観光客は、名古屋で近鉄に乗り換える不便さを言うが、「時間がかかるからこそ価値がある」という逆うちの動機付けはできないか。
- 人材確保が深刻。バス・タクシー運転手、飲食・小売などのパート・アルバイトが集まらない。サービス低下につながり、満足度にも影響する。

## (2) その他について

- “二度目の”、“体験”という視点でのメニュー開発は、伊勢を再訪する動機づくりになるのではないか。
- 体験メニューの提供は、日常的に需要がないと経営が難しい。試験的にツアーの中に組み込むなどすれば開始しやすい。
- 遷宮、サミット、菓子博といった特需期が終わり、ここから本当の伊勢の集客力が示される。弱いところを見極め、力を入れるべきものは何か、見極めていかねばならない。
- まちをハードで見ると、年間 800 万人がベストかと思う。
- 外宮参拝者の増は、おはらい町での滞在時間のずれとなって現れている。以前は客が増え始めるのは 10 時ごろであったが、近年は 11 時ごろ。
- 時間毎の参拝者数は把握できているか。
  - 神宮警衛部は計数しているが、公表されていない。
- 御退位・御即位を契機とした取り組みとその PR をしっかりと行いたい。
  - ・ “平成最後の”とよく耳にするが、即位後の「新たな一年に、みんな伊勢へ」「国民総参宮」という誘客 PR はできないか。
  - ・ 退位礼・即位礼からか、大嘗祭からかという時期の検討も必要だが、いずれにせよ関係者で合意形成し、準備を進める必要がある。
  - ・ まち全体での盛り上げムードの醸成、いつもと異なる風景・雰囲気づくりがまず必要。
  - ・ 神宮と連携した情報発信が重要。
- 計画検証について、具体的な目標を定めたうえで基本方針を決定したほうがよい。

(以上)